

【教育相談体制について】

《西山》ガイダンスカウンセラーの活用を！

さいたま市では、市立中学全57校にさわやか相談員とスクールカウンセラーを配置し市内5か所の教育相談室やその他の関係各機関と連携して児童、生徒、保護者のカウンセリング、教職員への指導や助言を行っています。

さいたま市のスクールカウンセラーは臨床心理士や大学教授です。

しかし、「学校がスクールカウンセラーに求めるニーズは様々で、臨床心理士以外の教育や心理といったカウンセラー資格者の積極的な活用が有効である」と、「教育相談等に関する研究協力者会議」で報告されています。

ガイダンスカウンセラーは、学校における児童生徒の学習面、人格・社会面、進路面、健康面の発達を支援する専門家です。地域と連携して児童生徒や家庭の支援を行なうことができるため、学校において多様な活躍が期待できるうえ経費も臨床心理士に比べ抑えることができます。ガイダンスカウンセラーの活用について見解を伺います。

《教育長》

ガイダンスカウンセラーは、学校において、学習や進路、健康面などにおける発達を援助する人材として、カウンセリングに関する新たな資格制度として立ち上げたものと認識しています。しかし、さいたま市では、当面これまで同様にスクールカウンセラーには、高度な専門性を有する臨床心理士を配置していきたいと考えています。

《西山》教育相談室にスクールソーシャルワーカーの配置を！

児童生徒の問題は、子どもを取り巻く家族・教師・友人など様々な人びとや地域の環境に注目し、それらの関係のなかで解決しなければならないケースが数多くあります。臨床心理士では対応できない福祉分野や保護者の相談に適切に対応するためには教育相談室にスクールソーシャルワーカーを配置することが必要であると考えますが見解を伺います。

《教育長》

スクールソーシャルワーカーについては、有用性を理解していますので、これまでのさいたま市の取り組みを含め研究を進めていきたいと考えています。

《西山》今後の教育相談体制は？

私は学校にさわやか相談員とガイダンスカウンセラー、教育相談室に臨床心理士とスクールソーシャルワーカー、その他関係機関に臨床心理士、教育委員会にスーパーバイザーを置いて教育相談の連携体制を図ることが望ましいと考えますが今後の教育相談体制について伺います。

《教育長》

学校と10名の臨床心理士を配置している5か所の教育相談室をはじめ専門機関が連携して、教育相談体制の充実を図っていききたいと考えています。

【がん対策について】

《西山》さいたま市版がん教育の実施を！

がん患者支援の活動は私のライフワークで、9月7、8日は緑区の農業トレーニングセンターでがん患者支援イベント「リレーフォーライフ in さいたま」を開催します。

今や日本人の2人に一人ががんを患い、3人に一人ががんで亡くなっています。子どもの頃から、がんについて学校で学び、がんの予防や命の大切さを考えるきっかけにしようと、がん教育の必要性が重視されています。

がん予防や、早期発見の啓発に加え、小・中学生の保護者は、がんのリスクが上がり始める40歳前後が多いことから、学んだがんの知識を家庭で話し合えば、親世代の検診受信率の向上につながると期待できます。

年齢に応じ子宮頸がんや放射能による被爆など、正確な知識を身につけて自ら予防に役立ててほしいと考えますが、さいたま市版がん教育の実施について伺います。

《教育長》

がん教育は、健康意識を高め、命の大切さを学ぶためにも重要な意義を持つと認識しています。今後は、医師会との連携を深め、先進事例を参考にして、教材の有効な活用方法を研究するなど、授業の充実に努力していきます。

《西山》緩和ケアの充実を！

精神的な痛みを和らげる緩和ケアには、がんサロンのほか、ピアカウンセリングやグリーフケアがありますが、緩和ケアの充実について伺います。

《保健福祉局長》

市立病院では「がんなんでも相談」やがんサロン「はなみずき」を開設しています。ピアカウンセリングは、がん患者や家族の苦痛の軽減や療養生活の質の向上において非常に大切なことと考えています。ピアサポーターの養成等、患者からの要望を十分に考慮して検討していきたいと考えています。グリーフケアは、重要であると認識しており、随時、遺族からの相談に応じ実施しています。

《西山》安心できる在宅医療を！

がん患者が安心して住みなれた家庭や地域で療養や生活ができるように、在宅緩和ケアを含めた在宅医療や介護の提供体制を充実していく必要があると考えますが、在宅医療の現状と今後の取り組みについて伺います。

《保健福祉局長》

現在、在宅医療を実施している医療機関の情報を「さいたま市医療ナビ」で提供しています。また、「さいたま浦和地区緩和医療研究会」で在宅医療に向けた地域連携に関する勉強会を実施する中で、がん患者や家族が満足度の高い終末期を過ごせるよう引き続き検討していきます。

《西山》がん対策推進協議会の設置を！

がん対策が前進するためには、がん患者、家族、医療、行政、議会、教育などの関係機関による、がん対策推進協議会が必要であると考えます。

昨年9月の一般質問では、「今後、他の先進的な地方公共団体の状況等を研究していく」との答弁でしたが、その後の調査研究と検討結果および今後の対応について伺います。

《保健福祉局長》

県との連携が重要であることから引き続き県のがん対策推進協議会に参画し、協議や意見交換等をしつつ、他自治体の動向にも注視していきます。今年度、埼玉県のがん対策推進計画や地域保健医療計画、さいたま市のヘルスプラン21を改訂する中で、さいたま市のがん対策の推進に向けた検討を進めていきます。

【大宮駅周辺の整備について】

《西山》大宮駅西口のまちづくりは？

現在、大宮駅東口では、公共施設の再編、NHKを含めた大門2丁目仲地区再開発事業などさまざまな動きがあります。さいたま市の顔としての大宮らしさを発信するには、大宮駅の東西エリアが一体となった発展が必要であると考えます。今後の大宮駅西口のまちづくりについて伺います。

《市長》

現在、施工中の大宮西口**第4土地区**画整理事業は着実に進んでおり、新たに**第3地区**においては、本年度の都市計画決定を目指して準備を進めているところます。官民協働によるまちづくりを推進し、「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」に掲げる、東日本の玄関口にふさわしい都心地区の形成を目指して、積極的に取り組んでいきます。

《西山》大宮駅西口**第3地区**のまちづくりは？

大宮西口周辺の新しいまちづくりを進める上で、**第3地区**再開発事業の進展が大きな課題となりますが、**第3地区**のまちづくりについてお伺いします。

《都市局長》

本年度は地元権利者等によるまちづくり団体である大宮駅西口タウン会議及び準備組合と連携を図りながら都市決定に向けて手続きを進めていきます。今後、官民が連携し数年程度での事業完了に向け、鋭意努力をします。

《西山》大宮駅西口第4地区のまちづくりは？

大宮西口第4地区の整備状況について伺います。

また、(仮称)大宮駅西口第4地区複合施設に隣接する公園の整備計画について伺います。

《都市局長》

引き続き建物等の移転、上落合桜木線等の工事を進め、使用収益開始区域の拡大を図ります。また、公園整備計画については、複合公共施設の開設をはじめ、商業・業務機能の集積が期待される駅直近の市街地に位置する特性を踏まえ、求められる機能、配置計画について、本年度検討します。

《西山》大宮駅西口第5地区のまちづくりは？

第5地区の新しいまちづくりを進める上で焦点となるのが、さいたま市営桜木駐車場用地の問題です。この用地は大宮市が国鉄清算事業団から取得した後、地元自治会と協議して5年ごとに使用状況を確認することを前提として暫定的に駐車場として使用しています。駐車場を開業して約19年経過していますが、この間、地元自治会や住民から、用地の活用方針について、意見や要望、質問が再三出されていますが、検討中ということで方針も具体的な計画も示されないうまま、今日に至っています。

最近の要望は、高齢者の福祉施設や医療関係機関および一部公園とし災害時における避難場所としての整備が出されています。これらの要望を踏まえ、駐車場用地をどのように活用されるか伺います。

《都市局長》

さいたま市都市計画マスタープランの中で、市営桜木町駐車場周辺における都市基盤の整備および低未利用地の有効活用の検討を掲げています。

隣接する第3地区の道路計画を含めたまちづくりの動向を見据えつつ、大宮駅周辺地域戦略ビジョンと整合性を図りながら、桜木駐車場の活用方策も念頭に置いて、住民との協働によるまちづくりを推進します。